

V 「教育学部で学んで」より

教育学部で学んで

150

人生百年の時代を迎えた。長い人生の礎となる青春時代を東大教育学部で学んだ同窓会員に、創立百周年以降の五十年間を、四年ことを区切りとして各年代三十四名の方に学生時代の教育学部の様子、自らの活動の様子、恩師への思いなどを語っていただいた。
なお、記念誌編集作業の関係で、発刊は令和二年一月に執筆していたものである。

学園紛争の時代に入学して



西 博孝 市川支部・昭和30年3月

入学試験の日、大学の正門に機動隊が配備され、物々しい雰囲気であった。受験票を提示して受験生だけが大学構内に入ることができた。遠巻きに様々なセクトの団体がシミュプレヒコールを上げていた。私たちは学園紛争の時代に入学した。南門から正門にかけての道にはポスターカラーで彩られた文字が躍る「立て看」が途切れること並んでいた。食堂前では常に誰かがマイクを持ってアジっていた。T大の大きな事件から2年後のことだった。ただ、授業を妨害するようなことはそれほどなかったように記憶している。学生生活は楽しかった。学費は月千円、育英会の奨学金が月五千円、学食のカレーは80円、ランチ80円、特別ランチ百円と記憶している。アルバイトは日給二千円前後、下宿生は家賃が一畳あたり千円程度ではなかったかと思う。大学構内には東大時代に使用・・・

千葉県の教育を担う教師として



渡邊宗七 千葉県勝浦市（SS4・3卒）

私は、中学生の時から夢であった教師を目指して、大学に入学し、千葉県の教育を担う教師として、一人前になれるよう努力した。その生活等について次に述べることにする。

一 副専攻数学科試験への挑戦

小学校教員養成課程「SE a3」の学生として、小学校免許はもとより、数学の免許取得に挑戦し、同免許を無事に取得することができた。副専攻の試験には二冊のテキストの内容理解に寸暇を惜しんだものである。ちなみに、解析学の単位修得には苦勞したことを・・・

千葉大学教育学部の思い出 伊藤（和田）香澄



神奈川県鎌倉市（G4・3卒）

大学入学試験で、教室の木製の机は落書きが彫られていて、答案が書けず衝撃を受けたというのが、教育学部の初めての印象だった。そんな舍も、今では教室も綺麗になり、卒業後の学食や図書館の変わりようにはびっくりである。

教育学部の授業は、一限から必修も多く、出席回数に厳しかったが、思い出深いものといえば実技である。体育の単位のため、泣きながら飛び箱の自主練習をしたことは忘れられない。同じように苦勞した女子学生は数多いのでは直らうか。また、家庭科選修では、型紙から・・・

成長のとき



原田陽子

島根県松江市（H2・3卒）

高校で進路を考えていた頃、音楽の道に進みたいと思い千葉大学教育学部を志望した。卒業後は、島根県に戻り、臨時講師ではあるが、二年生、五年生の担任として二年間教壇に立った。しかし、あの頃が最も辛くぎりぎりの状態であった。それでも諦めず、自分なりにやり遂げたことが、現在の根性を培ったのだと思う。

今回、最も辛かった教員時代を振り返り、あの頃では珍しかったのではないかと思うが、様々な国から来た人・・・

物怖じしない人生



高橋（ジェントリー）佳代子

米國テキサス州（CS・3卒）

・・・海外の幼児現場を観察したいという思いが募り、文部科学省の海外留学奨学金のお陰で本当に実現することになった。

米國テキサス州ヒューストン大学での留学を無事終了し、帰国してから卒業までの一年、教育学部幼児教育の教授陣には大変お世話になった・・・ 修士号を取得する決心をし、卒業後再び渡米してからすでに三十年が経つ。

在学中に出会った多数の方々に変なお世話になり、ご支持いただいたお陰であまり物怖じしない生き方を学んだ。ヒューストンで二十年以上福祉サービスマンとして勤めたのちに趣味で始めた保険の営業を通して、現在はテキサスの片隅で・・・